

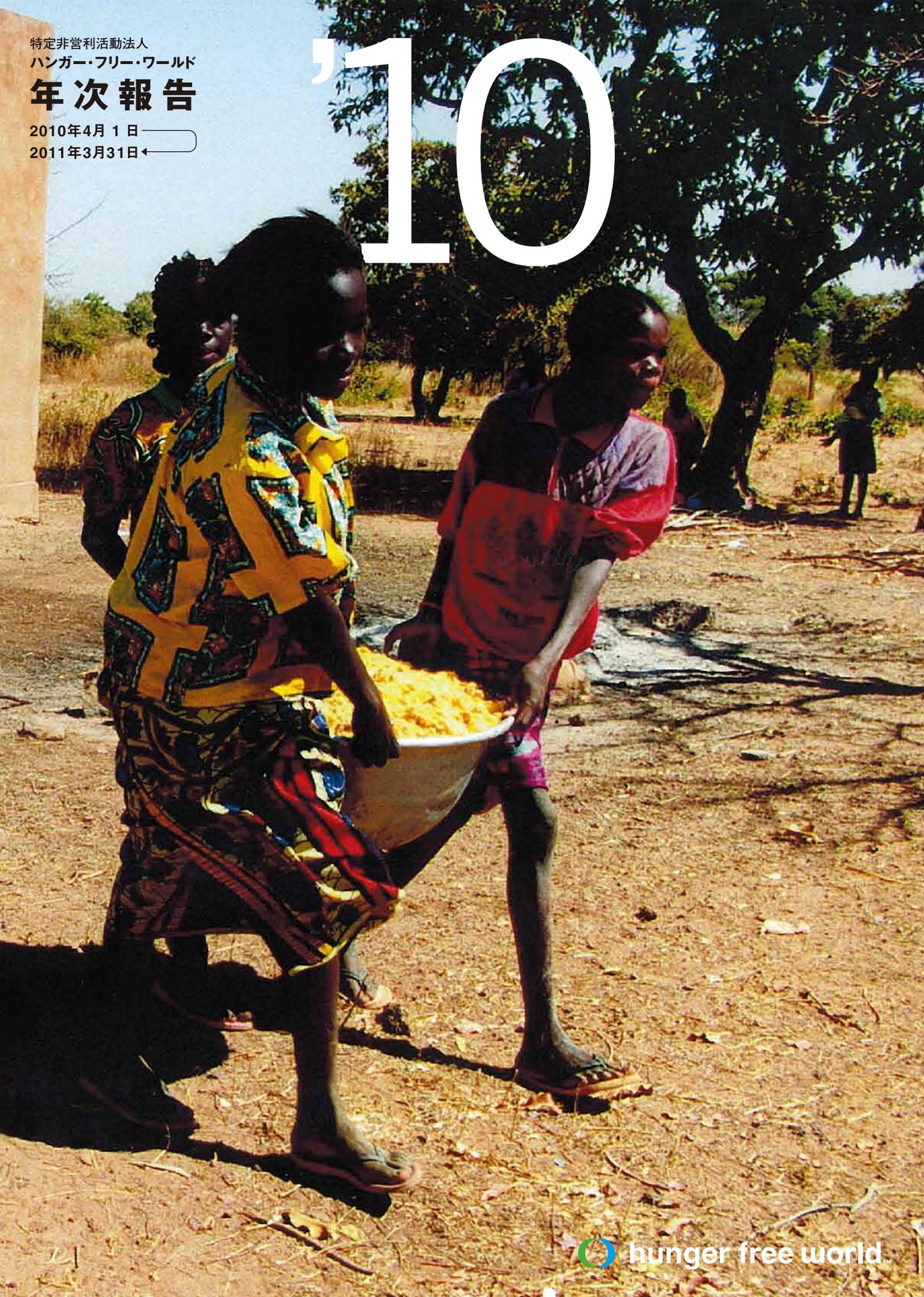
特定非営利活動法人
ハンガー・フリー・ワールド

年次報告

2010年4月1日

2011年3月31日

'10



ハンガー・フリー・ワールド

HFWの活動 2010

10周年を迎えた2010年度、飢餓に直面する11万9961人を支援しました。

今年度も、みなさまのご支援により“飢餓のない世界”をつくるための活動を行うことができました。

そして、HFWとして活動を開始してから10周年の節目となりました。

この10年間、一歩ずつHFWが成長してこられたのも、次の10年へと踏み出せるのも、多くのみなさまからのご支援とご指導の賜物です。

この年次報告では、海外支部4ヵ国、本部を置く日本、

5ヵ国に拠点のあるHFWの青少年組織ユース・エンディング・ハンガーの、1年間の活動をご報告します。



ブルキナファソ
ベナン
ウガンダ



◆2010年度の国別実績（事業名／対象人数／期間／支援額
（－は前年度以前の送金））〔単位：千円〕



バングラデシュ

- 啓発／750名／2000年4月～／－
- 女性対象の職業訓練および権利啓発／3370名／2001年4月～／49
- 小学校運営／900名／2002年8月～／2,477
- 小学校での栄養改善および健康管理／300名／2003年4月～／948
- 女性対象の奨学金／72名／2003年4月～／387
- 協同組合支援／1200名／2003年12月～／382
- ウィメン・エンディング・ハンガー支援／989名／2003年12月～／733
- ビジョン・リーダーシップ・パートナーシップ促進啓発／167名／2004年4月～／654
- 子ども対象の奨学金／25名／2004年4月～／27
- 女性対象の起業無償支援／7名と7グループ／2005年4月～／99
- 持続可能な農業普及のための農業訓練センター／27,000名／2005年8月～／2,813
- 母子対象のヘルスケアセンター／1,167世帯／2006年4月～／929
- バングラデシュ国内NGOネットワークへの参加／不特定多数／2006年4月～／111
- ビジョン2021推進のためのネットワーク運営・アドボカシー活動／不特定多数／2006年4月～／501
- 情報センター・図書館運営／不特定多数／2007年4月～／49
- 乳幼児と妊産婦対象の栄養改善・指導／200名／2010年4月～／1,734
- 災害復旧支援（YEH）／746名／2001年1月～／－
- 青少年対象の啓発（YEH）／不特定多数／2005年4月～／－
- リーダーシップ育成（YEH）／240名／2000年4月～／－
- 合計：対象者46,876名、支援額11,893

ベナン

- 青少年・成人対象の識字教育／205名／2005年1月～／2,709
- 幼稚園運営／177名／2006年10月～／2,418
- 権利啓発／520名／2008年7月～／575
- 母子保健センター建設／14,000名／2009年11月～／102
- 子どもの栄養改善／300名／2010年1月～／2,443
- 中学校設備改善／570名／2010年9月／895
- 女性協同組合によるキャッサバ加工／30名／2011年2月～／515
- 環境改善（YEH）／40名／2010年4月～／250
- 合計：対象者15,842名、支援額9,907

ブルキナファソ

- 乳幼児と妊産婦対象の栄養改善（CREN）／17,126名／2005年10月～／4,615
- 協同組合支援／125名／2006年8月～／1,988
- 学校給食／345名／2006年10月～／2,981
- 井戸修繕／1,006名／2010年4月／1,100
- 住民の能力強化／2,300名／2011年1月～3月／662
- 合計：対象者20,902名、支援額11,346

ウガンダ

- 女性対象の有機果樹植林／320世帯／2007年3月～／－
- カブブ区水と衛生／10,000名／2008年1月～／－
- 小学校有機果樹植林／210名／2008年11月～／－
- 植林／925世帯／2009年4月～／－
- 育苗場運営・植林・環境教育／690世帯、小学校5校の生徒1677名と教員44名／2010年4月～／6,618
- 公共トイレ建設・衛生研修／2600名／2010年3月～5月／－
- 小学校設備改善・教材提供／生徒400名、教員10名／2010年4～5月／2,747
- 青少年対象の養豚（YEH）／60名／2008年5月～／188
- 合計：対象者36,341名、支援額12,294

日本

- チャリティイベント開催・協力 25回
- 活動説明会開催 20回
- 活動報告会・学習会・交流会の開催 18回
- 国際協力などのイベントへの参加 11回
- 講演会、EHGなどの講師派遣 11回
- 中学生徒などによる事務所来訪 8回
- 参加者数のべ1,804名



○日本
○バングラデシュ

バングラデシュ

報告者 HFWバングラデシュ支部事務局長 アタウル・ラーマン・ミトン



有機農業が着実に浸透。住民による収入創出事業も拡大し、自立へ向けて前進しています。

Overseas ac

事業の背景

2郡23カ村で活動しています。この地域は、収入が1日100タカ(約150円)未満の世帯が約7割で、女性の地位が低いことで食事が後回しになり、妊産婦と乳幼児の低栄養が深刻など、多くの課題があります。また住民のほとんどが小規模な農業を営んでいますが、農薬や化学肥料のたび重なる値上げに、世界的な物価高騰も重なり、農業資器材の経費が家計の大きな負担となっています。そこで、そうした課題に対して17の事業を実施。特に、農薬や化学肥料を使わずにすむ有機農業の推進に力を入れています。

今年度の成果

持続可能な農業への取り組みとして、2009年度末に完成したカリガンジ郡農業訓練センター研修棟や各村で16回の有機農業研修を実施、のべ440名以上が受講し、多くの農家が有機農業を始めることができました。

ボダ郡の農村で、3カ年計画の栄養改善・栄養管理事業※1を開始(4月)。100名の妊産婦とその子どもに週5日の栄養補助食を提供するとともに、限られた食材で栄養を最大限に生かす調理ワークショップや、栄養バランスの知識を学ぶ機会を提供し、妊産婦と乳幼児の栄養改善が進んでいます。

住民組織による収入創出事業も拡大。カリガンジ郡では、住民も出資※2している協同組合が、町の中心地に日用雑貨のお店をオープンし(4月)、組合員や出資した住民の収入向上につながっています。そのほか、カリガンジ郡で養魚や養牛を開始した3組合、ボダ郡で菜園などを始めた2組合に対して、HFWが立ち上げ資金を出資。今後の組合員の収入向上を期待しています。

※1 味の素「食と栄養」国際協力支援プログラムの助成により実施

※2 HFWが1000口、400の地域組合や個人が約700口出資(1口500タカ(約750円))

今後への課題

ボダ郡、カリガンジ郡の農業訓練センターは、敷地内のモデル農園の収穫物の売り上げで運営費をまかない自立運営することをめざしていました。しかし現在、収穫物の売り上げだけでは運営費が足りていません。今後、宿泊施設を併設して利用料から運営費をねん出するなど、収入創出の方法を模索しています。



Profile HFWの青少年組織ユース・エンディング・ハンガールのリーダー、新聞記者を経て、2000年のHFWバングラデシュ支部設立と同時に事務局長に就任。「貧しさのため、9人中5人の兄弟を生まれてすぐに亡くしました。飢餓を終わらせることは、私の人生の目標です」。

成果の一例

ウィメン・エンディング・ハンガー支援



人前で意見を言えなかった女性たちがケーキ祭を盛大に開催。

カリガンジ郡では毎冬、女性の自助組織ウィメン・エンディング・ハンガー(WEH)がケーキ祭を開催。女性たちが手作りケーキを販売し、収入を得ています。2010年度は、WEHメンバーが初めて協賛金依頼の企業訪問に挑戦。500タカ(約750円)の協賛金がいただけました。金額は大きくありませんが、初の試みとしては大成功です。また企画に共感して入場門の設置やステージの装飾を手伝ってくれる企業も現れ、去年の約4倍となる3000名もの住民が集まる盛大なイベントになりました。農村部では女性の地位が低く、人前で意見を言えなかった女性たち。そんな彼女たちが、今は地域を巻き込んで盛大なイベントを開催していることに、大きく心を動かされました。



ベト村に初の保健医療施設が完成。
特に保健分野に力を注いだ1年でした。



activities 10 海外の活動

事業の背景

ベナン南部のベト村で活動しています。2004年に住民とともに実施した調査では、初等教育の就学率、栄養不良児の割合、医療機関への距離などは、ベナンの平均以下という結果でした。そこで、まずは地域づくりの担い手を育てるために住民の能力をのばそうと、識字教育や幼児教育の推進など、教育分野を支援してきました。その後、2007年の調査で7人に1人の子どもが栄養不良であることがわかりました。そこで2009年度から、保健医療施設の建設や子どもの栄養改善などの保健分野の活動に力を入れています。

今年度の成果

2009年度から建設に着手していた産院「母子保健センター」※が完成し(8月)、ベト村に初の保健医療施設ができました。その後、産院としてだけでなく、軽症の患者を診る診療所としての役割も果たしています。

2009年度末に始まった子どもの栄養改善事業では、栄養士の指導を受けた住民が中心となって、栄養改善食の提供や母親への栄養指導、家庭訪問による健診などを定期的実施。今年度の対象となっていた65名の栄養不良の子どもが、1年を通して、ほぼ標準体重・身長になるまで栄養状態を回復させました。

また権利啓発事業で、話し合いの進行や権利について寸劇で伝える役割を担っていた住民に、子どもの栄養改善事業でも活躍の機会を提供。母親への栄養指導の合間に、子どもが飽きないように寸劇を行うなど、ひとりの住民がさまざまな事業の運営に携われるようにしました。こうした経験を積んだ住民が、地域で必要な事業を企画・運営できるようになることをめざしています。

※外務省の日本NGO連携無償資金協力の助成により実施

今後への課題

母子保健センター建設事業で予定されている診療所や薬局の建設などを、滞りなく進めていかなければなりません。住民による子どもの栄養改善事業と母子保健センターでの事業の連携によって、地域の住民の健康を管理していく体制を築くことも早急に必要です。



Profile HFWの青少年組織ユース・エンディング・ハンガのリーダー、米国系国際NGO勤務を経て、2007年よりHFWベナン支部事務局長。「貧しい人々が本来の力を発揮できるよう支援しているHFWで、責任ある仕事を任されていることは、私の誇りです」。

ベナン共和国 ●面積:11万2622km²
●主な産業:農業(綿花、パームオイル)、サービス業(港湾業)
●人口:890万人 ●言語:フランス語(公用語)
●宗教:伝統的宗教65%、キリスト教20%、イスラム教15%
●5歳未満児死亡率:1000人中118人
●1人あたりの国民総生産:750米ドル
●平均余命:62歳 ●成人識字率:41%
(参考資料:外務省ホームページ、ユニセフ「世界子供白書2011」)

成果の一例

母子保健センター建設



大量出血した母親の命が助かりました

ベト村住民とHFWベナン職員で幾度となく話し合いながら進めてきた母子保健センター建設。8月の完成式典では、喜びを体いっぱい表現する住民、私の手をとってお礼を述べる住民にたくさん出会いました。1月には、出産直後のお母さんが大量出血をおこし、センターの看護師は手術が必要と即座に判断。ベト村から7~8km離れている手術可能な病院に、通りすがりの車に搬送してもらうという出来事がありました。母親が入院していた数日間、産まれたばかりの赤ちゃんは母子保健センターで預かり、センター職員が献身的に世話をしました。元気になってベト村に戻ってきた母親は、赤ちゃんとも再会。母子ともに無事だったことに、心から安堵しました。

ブルキナファソ

報告者 HFWブルキナファソ支部事務局長 モリス・ソメ



乳幼児の栄養改善事業をさらに充実させるとともに、5年間の事業評価も行いました。

事業の背景

5歳未満児死亡率が世界で9番目に高いブルキナファソ(ユニセフ2011)で、クブリー郡の国営保健センターと協力し、乳幼児と妊産婦の栄養改善事業(CREN)を実施しています。またセンター周辺の4ヵ村が活動地域です。乾燥地帯のため、住民はわずかな雨に頼って農業を行っていますが、世界的な気候変動の影響で天候が不安定になり、十分な収穫を得られないこともあります。現金収入の機会が限られているため、食料を購入することも困難です。そこで、女性協同組合による収入創出事業の支援にも力を入れています。

今年度の成果

CRENでは、2010年度の健診で栄養不良と診断された子どもは127名。以前から治療している子どもも含めた約500名のうち119名の栄養状態を改善することができました。また、このうち重度の栄養不良児と診断された子どもの定期健診と治療を週1回から3回へ増やす「短期集中治療」を開始しました(5月)。これにより、重度の子ども51名中48名が年度末までに栄養状態を回復させました。

女性協同組合への支援も継続。ウエドビラ村に脱穀製粉機を設置(6月)し、組合が利用者から利用料を徴収して管理し、利用料は組合の運営費となっています。また、それまで約7km離れた村へ、主食となる穀物を製粉しに行っていたウエドビラ村の女性たちの家事労働を大きく軽減しました。

HFWが活動を始めた2005~2010年までの事業評価を行いました(7月)。住民との相互理解・信頼関係構築の5年間で終わり、次の5年間でさらに成熟した住民との協働をできるものと期待しています。

今後への課題

地域の自立に向けて事業を発展させていくためには、収入創出事業の拡大、および各村で事業の推進役を担う住民の育成が求められます。後者に関しては、各村での経験を共有し、互いに学び合って事業に反映していく枠組みづくりが早急に必要です。



Profile ブルキナファソ社会福祉省勤務等を経て、2008年よりHFWブルキナファソ準支部/支部事務局長。「前職では、知識を“教える・指導”する側でした。HFWでは、住民同士の意見交換の場をつくるなど、住民の能力を引き出す役割を果たしています。ここに、大きな魅力とやりがいを感じています」。

ブルキナファソ ●面積:27万4200km²
●主な産業:農業(粟、とうもろこし、タロイモ、綿及び牧畜)
●人口:1580万人
●言語:フランス語(公用語)、モレ語、ディウラ語、グルマンチェ語、他
●宗教:伝統的宗教57%、イスラム教31%、キリスト教12%
●5歳未満児死亡率:1000人中166人
●1人あたりの国民総生産:510米ドル
●平均余命:53歳 ●成人識字率:29%
(参考資料:外務省ホームページ、ユニセフ「世界子供白書2011」)

成果の一例

学校給食



お腹を満たして授業に集中!
あと2年で合格率を100%にしよう

1日1食、夕食だけというのが日常のブルキナファソの村で、お昼ご飯が食べられるというのは画期的なこと。そのため、新年度、HFWが給食を支援するピシ村小学校の生徒数は、前年度の267名から316名に増えました。またピシ村小学校は、今年度の進級試験で郡の学区内20校のうち6位となりました。学区内の平均合格率43%に対して、ピシ村小学校の平均合格率は62%。これは公立小学校としても非常に高い成績で、給食によって集中力が高まった効果と、教員、HFW職員一同は大喜び。教員たちは、HFWが給食事業を始めた2006年以降に入学した生徒たちを「élèves hunger free world (ハンガー・フリー・ワールド生)」と名づけ、「あと2年で全生徒の合格率を100%にする!」と意気込んでいます。

報告者 HFWウガンダ支部事務局長 バッテ・フレドリック



植林事業に注力し、
住民が育てた苗木22万本以上が
地域に植えられました。



事業の背景

ワキソ県5区25ヵ村で活動しています。2002年に実施した基礎調査では、安全な水や衛生的なトイレの普及率、栄養不良児の割合、各世帯の収入などが、ウガンダの平均以下でした。そこで、まず住民の要望が強かった井戸を、各村に少なくとも1つ設置。子どもや女性たちは、水汲みの時間を短縮して勉強や畑仕事に充てられるようになりました。その後、ウガンダ全土で森林伐採が急速に進んで降雨量が減少していることが専門家から指摘され、国全体での対応が必要との認識が広まっています。そこで、2007年から植林事業に力を入れています。

ウガンダ共和国 ●面積:24万1000km²
 ●主要産業:農業(コーヒー、綿花など)、鉱業(銅など)、工業(繊維など) ●人口:3165万人
 ●言語:英語、スワヒリ語、ガンダ語、他
 ●宗教:キリスト教60%、伝統宗教30%、イスラム教10%
 ●5歳未満児死亡率:1000人中128人
 ●1人あたりの国民総生産:460米ドル ●平均余命:53歳
 ●成人識字率:75%
 (参考資料:外務省ホームページ、ユニセフ「世界子供白書2011」)

今年度の成果

HFWは2007年度に植林事業※を開始。2009年度には育苗場を建設し、住民自身が苗木を育てて地域の住民に提供しています。2010年度までにのべ70万本以上の果樹・薬用樹を植林。2008年度に住民が植えた果樹は初めての収穫を迎えました(9月)。

このほか2010年度は、HFWが支援する小学校5校に苗木を提供し(9月、3月)、生徒たちが果樹を植えて世話をしています。各校の生徒と教員を対象に環境保護の重要性と植林に関する研修を実施(3月)。これにより、子どもたちの環境と植林への意識を育むことができました。

ナッケデ区とルグジ区の各1ヵ所で公共トイレ建設が終了し(5月)、衛生状態が改善されました。トイレ完成に先立ち、衛生的な生活習慣と公衆衛生についての研修を2区全9ヵ村の住民に対して行い(4月)、361名が参加。トイレを使うことや手洗いへの住民の意識を高められました。

※2008年度から地球環境基金の助成を受けて実施

今後への課題

植林を行った住民には、HFWが推奨する植物性農薬が近所の店に置いていないため、使用をあきらめ、果樹・薬用樹が虫にやられた人がたくさんいました。農薬1本で20回散布できる量なので、共同購入を検討しています。



Profile HFWの青少年組織ユース・エンディング・ハンガーのリーダー、カンパラ市青年代表議員、NGO職員を経て、2000年のHFWウガンダ支部設立と同時に事務局長に就任。「待遇のよい仕事を辞めて、HFWに入職しました。飢餓をなくそうと強い熱意を持つ日本の仲間とともに活動できることは、人生の喜びです」。

成果の一例

植林事業



知っているだけの知識から、
使える技術になりました

ウガンダの学校では、先生が黒板に書いたことを生徒がひたすらノートに書き写す授業が一般的です。HFWが支援する小学校で理科や農業を教えている先生も、テキストだけで指導していました。今回、各校から選ばれて植林研修に参加した先生たちは、育苗作業や接木を体験したことで、「今後の指導への自信ができました」と語っていました。その後、私が小学校の植林授業を見学した際には、実演つきの先生の授業に子どもの目が輝いていたことに感動しました。また生徒からは、「植林を習う前は、木は自然に生えてくるものだと思っていました!」との感想も聞こえてきました。子どものころに感じたことは、大人になっても忘れないもの。彼らが大きくなったときに、地域の環境を守ってくれるものと期待しています。

【啓発活動】 ～“飢餓をなくす人”を増やす～

世界から飢餓をなくすのは、一人ひとりの行動です。海外の活動国では、さまざまな自立のための支援を通して、現状をあきらめずに自ら立ち上がることを呼びかけています。日本では、私たちの暮らしや食生活と世界の飢餓とのつながりを伝え、飢餓の終わりのために行動することを訴えています。

エンディング・ハンガー・ゲームを実施
(企業や学校の主催・協力/9月、
10月、11月、12月)



Activities in

ボランティアが企画・運営するチャリティカレーパーティー(ノボディゴント/毎月開催)



10周年シンポジウム。およそ200名が来場(6月)

ボランティアがフリマに出店しブルキナファソを支援
(ハンガー・フリー・フリマ倶楽部/4月、8月、11月、1月、2月)



食料デー月間2010のチラシ。
HFWのデザイン・編集ボランティアが
制作に協力

飢餓の現状や HFW の活動を伝える活動説明会やイベントを、各地で開催しています。

10周年を迎えた6月には、シンポジウム「飢餓のない世界へー日本に暮らす私たちの責任と役割」を開催。国際機関、政府、企業、市民団体の各分野からパネリストを招き、HFW バングラデシュ、ベナン支部の事務局長も登壇しました。

国連が定めた食料問題を考える日「世界食料デー(10月16日)」を日本で盛り上げる「世界食料デー月間」。飢餓や食料問題に取り組む国際機関や NGO と共同で、食料問題についての情報発信やイベントを開催するこの取り組みが始まって3年、HFW は積極的にに関わり、2010年度も事務局を担当しました。また世界の飢餓と私たちの食生活について考えるプレイイベントを、各団体の持ち回りで全5回開催(7~10月)。HFW は開発教育協会と共催で、フードマイレージについて考

えるワークショップ「私たちの食卓から考える食料問題」を実施しました(9月)。

体験型の啓発イベント、「エンディング・ハンガー・ゲーム」を6回実施(HFWほか5つの団体・企業・学校が主催、9月、10月、11月、12月)したほか、「アフリカンフェスタ2010」(外務省主催、6月)、「グローバルフェスタ JAPAN2010」(グローバルフェスタ JAPAN2010 実行委員会主催、10月)、「第4回食育フェア」(東京都主催、10月)をはじめ、多数の国際協力イベントや“食”がテーマのイベントにも出展しました。

各地でボランティアが企画するイベントは、料理教室、フリーマーケットへの出店、写真展、チャリティコンサートなど、支援国の現状とともにその国の文化も知ることができる多彩な内容で、幅広い層の方々に飢餓をなくすための活動に加わってもらえる機会となりました。

【政策提言】 ～飢餓を生む世界の構造を変える。世論を喚起する～

食料分配の不平等や地球温暖化など、飢餓を生み出す世界の構造の転換が必要です。「ミレニアム開発目標（MDGs）」の達成をはじめとする、食料への権利が守られるために必要な世界の国々の約束が、政治の、そして市民の優先課題となるよう、さまざまなネットワークと協力し、提言活動に取り組んでいます。



連続セミナー「飢餓を考えるヒント」。講師と参加者がともに食料問題への議論を行った

japan '10 国内の活動

2010年度は、有識者との意見交換の機会を多く持ち、HFWが独自に政策提言を行うための情報の収集、人脈の構築に努めました。また引き続き、食料問題に関する提言の積極的な発信や、世論喚起を行うために各種ネットワークに参加をしています。

2008年度から実施している連続公開セミナー「飢餓を考えるヒント」（HFWほか3団体共催、4月、5月、7月、11月）では、食料への権利とは何なのか、どのような課題があるのかを、研究者、ジャーナリストなどの有識者が発表。NGO関係者、大学生、マスコミ関係者、政府関係者など、幅広い層が参加し、その発表をきっかけに議論し、ともに考えを深めました。また、その内容をまとめた冊子（HFWほか2団体で発行）をイベントなどで配布し、より多くの方にセミナーの内容を伝えました。

飢餓や栄養不良の解決に向けて活動する機関や市民団体などがともに行動する国際的な枠組み「Alliance Against Hunger and Malnutrition (AAHM)」の日本版「ゼロ・ハンガー・ネットワーク・ジャパン」（事務局：FAO日本事務所）の立ち上

げに協力。海外でのパイロットプロジェクトや日本国内での開発教育などを連携して行います。今後メンバー団体が、食料安全保障の世界的な戦略策定と各国、機関との政策調整役を担う「FAO世界食料安全保障委員会※1」へ参加し、日本からの提言活動も行う予定です。

世界的な貧困問題解決ネットワーク「GCAP※2」の日本版「動く→動かす」にも継続して参加。飢餓人口の半減など、2015年までに達成すべき8つの目標を掲げた「ミレニアム開発目標（MDGs）」の達成を世界のリーダーに訴える世界同時アクション「STAND UP TAKE ACTION」（動く→動かす主催、9月）や、日本における政策提言の土壌を育てるための「アドボカシー実践講座」（動く→動かす主催、3月）の企画・運営に関わりました。また企業が社会的責任（CSR）活動を行う際、MDGsの達成を意識するよう啓発することを主な目的とした「CSR推進NGOネットワーク」のコアメンバーとしても、引き続き活動しました。



札幌で開催されたCSR推進NGOネットワーク主催のシンポジウムに、HFW事務局長が登壇



トークイベントSTAND UP CAFEで Bangladesh の事例について話すHFW Bangladesh担当職員

冊子「飢餓を考えるヒント」no2。HFWが主に編集し、HFWのデザインボランティアが協力

※1 FAO世界食料安全保障委員会:FAO加盟国のほか国連機関や農業団体、NGO、研究機関なども参加。食料安全保障に関する世界的戦略の策定、各国政府の政策調整役などを担う。

※2 GCAP:世界100ヵ国以上で活動する貧困問題解決を目指すネットワークGlobal Call to Action against Povertyの略称

【青少年育成】 ～若者が飢餓をなくす～

世界の人口の多くを占めるのは15～25歳の青少年です。未来の担い手の若者が、主体的に飢餓の終わりのために行動できるよう、HFWは青少年組織ユース・エンディング・ハンガー（YEH）をサポートしています。



YEH は世界4ヵ国で活動。海外では若者を対象とした開発事業や啓発活動を、日本国内では高校生から大学生を中心としたメンバーが10地域で、チャリティイベントや募金活動、飢餓の終わりを訴える啓発活動に取り組んでいます。また各国で年に1～2回、普段は別々の地域で活動するメンバーが各国内で一室に

会して全国会議（National Youth Conference: NYC）を行っています。海外での NYC 開催にあたっては、YEH ジャパンが街頭募金や協賛企業を募るなどして資金調達。YEH ジャパンのメンバー各1名が3ヵ国での会議に参加しています。

Activities of Youth Ending Hunger 10

ユース・エンディング・ハンガーの活動



バングラデシュ 原爆から平和を考えるイベント、寒波救済を実施

8月には首都ダッカで、日本での広島や長崎に落とされた原爆の悲惨さを伝えるための「広島デー」を開催。セミナーやフィルムショー、ポスター展示や子ども向けのお絵かき大会などを通して、平和の尊さを伝えました。1月には、寒波によって厳しい寒さに凍える地域の人々への防寒具や毛布支援も行いました。



ベナン 地域の清掃・衛生啓発に注力

衛生環境が悪いためマラリアやコレラなどの病気にかかる人が多いベナン。昨年度に引き続き都市部と農村部で、週1回の清掃活動、月1回の衛生啓発などを行い、地域の衛生環境改善に努めています。全国会議開催も4年目となり、OB・OGやHFWに頼らず、YEHメンバーが主体的に運営することができました。



ウガンダ 若者の収入創出となる養豚プロジェクトを拡大

若者の収入創出のため、カブンバ区とトゥンバリ・ルウェンウェデ区で実施してきた養豚プロジェクトを、2010年度はナッケデ区でも開始。豚小屋の建設、豚の飼育と、プロジェクトメンバーへの飼育トレーニングを行いました。先に始めた2地区で次々に生まれている子豚は、随時YEHメンバーに提供しています。



日本 全国のグループが6から10に拡大

新たに、関西（4月）、宇都宮（6月）、広島（11月）、埼玉（1月）の4グループが立ち上がり、全国10グループに拡大しました。9月17～19日にはYEHジャパン全体で、MDGsの達成を世界のリーダーたちに訴える世界同時アクション「STAND UP TAKE ACTION」（動く→動かす主催、9月）に参加。735名が参加し、国内で2番目に参加人数の多い団体となりました。

ブルキナファソ

活動再開をめざして準備中。高校生が奮闘

現在は活動休止中ですが、HFW職員が事務所周辺に住んでいる高校生に説明会を行うなど、活動再開に向けた準備を進めました。2月からは興味を持った高校生がHFW事務所に集まって話し合いを重ね、2011年夏の活動再開をめざしています。



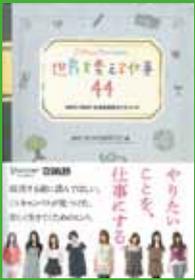
白木隆司さん（YEH代表）

可能性を信じ、行動し、支えられてきた成果

2010年度は、日本で4グループが立ち上がり、YEHバングラデシュが寒波救済の資金を100%自分たちで集めるなど、成長が目に見えた1年でした。これも、歴代YEHメンバー、協賛企業、寄付・協力者の方々あってこそと、深く感謝しています。

Public relations and fund raising '10

広報・資金調達



さまざまな書籍や雑誌が HFWを紹介



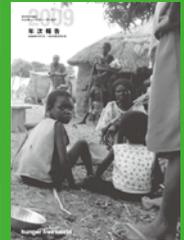
ホームページ。10月に「世界の飢餓と私の食」ページをリニューアル

HFwが刊行するすべての制作物に、プロのデザイナーや編集者がボランティアとしてかかわっている



写真で伝えるハンガー・フリー・ニュース

年次報告、ハンガー・フリー・ニュース



10周年誌・ロゴ。関わって10年目になるデザインボランティアが制作。封筒など各種媒体に掲載した

【広報】 ～団体内外で信頼関係を構築する～

HFw10周年の感謝を込めて「10周年ロゴ」(5月)を制作し、10年間の成果と教訓をまとめた10周年誌(6月)を発行。また定期刊行物として「年次報告書」(7月)、情報誌「ハンガー・フリー・ニュース」(4月、7月、10月、1月)を88号から91号まで発行。ポストカードによる「写真で伝えるハンガー・フリー・ニュース」を24号から26号(4月、9月、12月)、メールマガ

ジンを月刊で発行しました。1カ国を選んで支援する会員、ハンガー・フリー・パートナーへの個別の報告も随時行いました。

インターネットを中心とした各種媒体によって、活動紹介、入会・寄付の呼びかけ、ボランティア募集、イベント告知を積極的に行いました。

【資金調達】 ～支援の気持ちを“形”に変える～



児童労働問題を扱う NGO(特活) ACEに監査役を依頼し、リー・ジャパン株式会社、HFwの三者で寄付付き商品のウガンダの原料生産現場を視察



iPhoneアプリの寄付サイトに参加するなど、デジタルコンテンツの利用にも一歩踏み出した



全国から寄せられた書損じハガキを仕分けするカウントボランティアのみなさん。150名超が参加

会費収入は法人・一般とも減少したものの、2007年度に開始した「ひとつぶ募金(1口1000円/月)」に注力し、参加者が順調に増加。今年度は過去最高の337口の申し込みが寄せられ、2011年3月現在で735口(531名)となりました。ハガキや商品券などを送ることで気軽に参加できる「書損じハガキ回収キャンペーン」も継続。第9回(2010年1月～5月)は、個人1万9923名、企業・団体104組織のみならず4477万7029円の支援金となりました。そのほか、企業や団体から依頼を受けチャリティイベントやボランティア体験会を実施・協力。企業が社会問題と関連づけてアピールし販売する「Cause-related

Marketing(CRM)商品」の売り上げによる寄付も受けました。また HFw は寄付をいただく一方で、その企業活動が公正・公平に行われているか確認することの重要性を認識。HFw ウガンダ支部担当職員が、リー・ジャパン株式会社のウガンダのオーガニックコットン生産現場を視察(12月)し、児童労働がないことなどを確認しました。

全体収入は、前年度に大規模事業への助成(約1900万円)を受けていた影響から1億4871万円(前年度比95%)となりましたが、自己資金(会費・寄付の合計)は過去最高額となりました。

【組織運営】 ～活動をより効果的にするための基盤～



支部事務局長を日本に招へいし、5年ぶりに開催した事務局長会議。
4日間にわたって中長期計画を議論した

経営

海外4ヵ国支部の事務局長、本部事務局長と職員らによる事務局長会議を5年ぶりに開催し（6月）、2005年に策定した2015年までの中長期計画の中間評価を実施。3割程度の計画達成率となり、十分な目標管理体制や実施体制を構築できていなかったことが確認されました。この反省を踏まえ、抜本的な計画の見直しを実施。進捗状況の目

標管理・情報共有体制の強化に加え、事業を実施するのに必要な能力強化も盛り込んだ中長期計画に改定しました（3月）。

昨年から導入した担当理事制が本格的に稼働し、開発事業、啓発事業、広報業務、資金調達業務の各担当理事を設け、各理事の助言と専門性を活かしながら事業を推進しました。

労務管理

支部ごとに異なる給与ルールを整理すると同時に、遅れていた社会保障の整備と活動国での物価上昇などに備えるため、勤続給や扶養手当等を盛り込み、支部職員の待遇改善を図りました（10月）。

本部では、インターンや専門技術を活かしたボランティアや多くの事務作業ボランティアによって、業務の質が向上し、また限られた資金でも業務を推進することができました。インターン制度では、将来のキャリアプランに役立つよう、多様な研修の機会も提供しました。各ボランティアグループも、自主的に多数のイベントを企画しました。職員の労働環境においては、一部の職員の

長時間労働という旧来からの課題は改善できませんでした。しかし、次年度の業務体制の見直しが決定しました。3月11日に発生した東日本大地震では役職員の被害はなかったものの、被災地の会員・寄付者の被災状況を想定し、会費・寄付金の引き落としと一定期間停止に着手しました（ご家族等の連絡を優先させるため会員・寄付者の安否確認と当該措置の連絡は4月に実施）。本部事務所では帰宅困難や物資の不足、電話不通などが発生し、震災を想定した危機管理マニュアルの整備が急務となりました。

会員数 942名

ハンガー・フリー・パートナー …… 82名
グローバル・ファミリー …… 一般/624名 学生/107名
法人 …… 18社
(2011年3月31日現在)

寄付者数

個人・企業・団体 …… 947名
ひとつぶ募金参加者531名を含む

組織運営 Management 10

人材

正会員 …… 51名	ボランティアクラブ	ボランティア
役員 …… 理事7名・監事2名	・ハンガー・フリー・ワールド長野	・書損じハガキカウント作業（登録数） …… 150名
職員 …… 専従11名・非専従5名	・ノボディゴント	・翻訳・通訳（登録数） …… 52名
インターン …… 27名	・ハンガー・フリー・いけばな小原	・イラスト・デザイン・編集・HP構築 …… 20名
	・ハンガー・フリー・板橋	・ベナンチーム …… 11名
	・ハンガー・フリー・フリマ倶楽部	・ウガンダチーム …… 12名
	・YEH愛知 OB・OG会	
	・エトセトラ	
	・ハンガー・フリー・気仙沼	
	・ハンガー・フリー・NAGOYA	



(2010年度のべ数)

※その他、多くの方にさまざまなご協力をいただきました。

特定非営利活動法人
ハンガー・フリー・ワールド

2010年度決算報告書

収支計算書

2010年4月1日～2011年3月31日

[単位：千円]

資金収支の部	予算	実績
I 経常収入の部		
1 会費収入	28,700	27,126
2 寄付金収入	109,400	102,604
3 補助金・助成金収入	5,700	2,104
4 その他の収入	1,200	659
経常収入合計	145,000	132,493

II 経常支出の部		
1 事業費		
海外支援事業費	71,000	64,744
国内活動事業費	37,700	52,176
2 管理費	32,000	23,035
経常支出合計	140,700	139,955
経常収支差額	4,300	-7,462

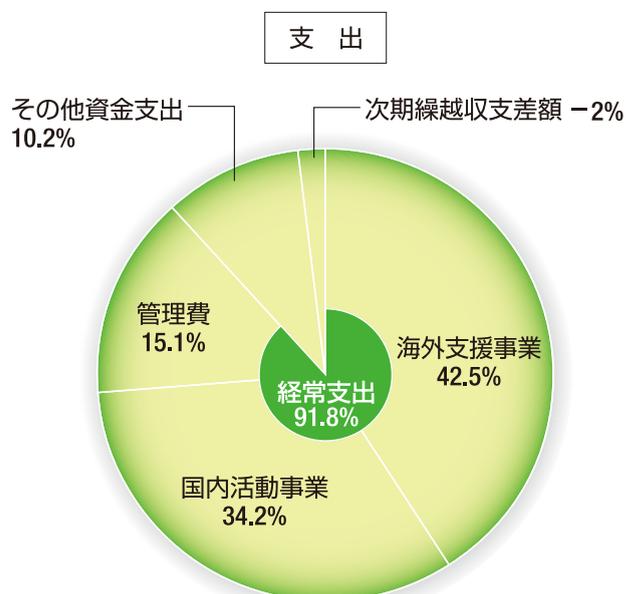
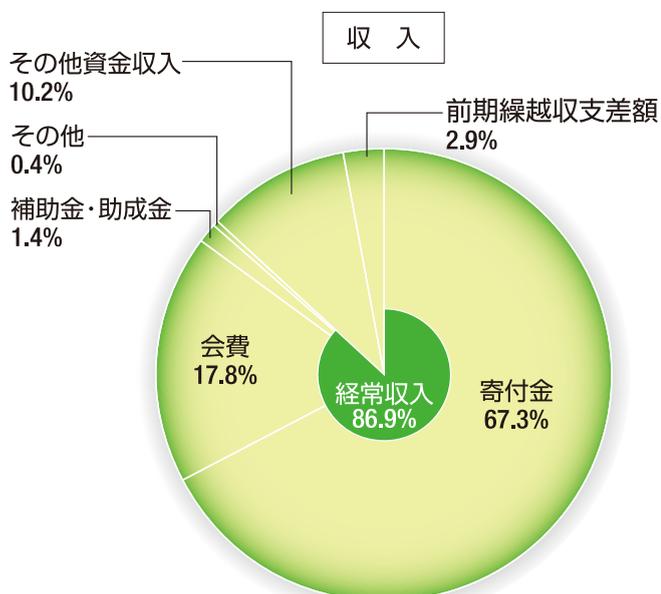
III その他資金収入の部		
短期借入金収入	0	15,500
その他資金収入合計	0	15,500

IV その他資金支出の部		
短期借入金返済支出	0	15,500
予備費	300	0
その他資金支出合計	300	15,500
当期収支差額	4,000	-7,462
前期繰越収支差額	4,373	4,373
次期繰越収支差額	8,373	-3,089

正味財産増減の部	
V 正味財産増加の部	
1 資産増加額	0
2 負債減少額	
短期借入金返済額	15,500
増加額合計	15,500
正味財産増加合計	15,500

VI 正味財産減少の部	
1 資産減少額	
当期収支差額	7,462
減価償却額	500
長期前払費用償却額	269
固定資産除却損	2
2 負債増加額	
短期借入金増加額	15,500
減少額合計	23,733
正味財産減少合計	23,733
当期正味財産増減額	-8,233
前期繰越正味財産額	8,425
当期正味財産合計	192

(注) 各事業には、担当者の人件費、事務所経費の一部が含まれています。



貸借対照表

2011年3月31日現在

[単位：千円]

資産の部	
1 流動資産	
現金	233
普通預金	6,973
未収入金	9,321
前払金	17
貯蔵品	44
流動資産合計	16,588
2 固定資産	
建物付属設備	965
器具備品	1,850
一括償却資産	473
減価償却累計額	-2,274
差入保証金	1,998
長期前払費用	269
固定資産合計	3,281
資産合計	19,869

負債の部	
1 流動負債	
未払金	19,627
預り金	50
流動負債合計	19,677
2 固定負債	
	0
固定負債合計	0
負債合計	19,677

正味財産の部	
前期繰越正味財産額	8,425
当期正味財産増減額	-8,233
正味財産合計	192
負債及び正味財産合計	19,869

2010年度監査報告書

特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド2010年度決算報告書は監査の結果、適正にして妥当であることを認めます。

2011年6月18日

監事

と島 鋭一

事業費支出の内訳

1 海外支援事業費	
ビジョン2021推進のためのネットワーク運営・アドボカシー活動	501
ビジョン・リーダーシップ・パートナーシップ促進啓発	654
Bangladesh国内NGOネットワークへの参加	111
持続可能な農業普及のための農業訓練センター	2,813
小学校での栄養改善及び健康管理	948
乳幼児と妊産婦対象の栄養改善・指導	1,734
小学校運営	2,477
女性対象の奨学金	387
子ども対象の奨学金	27
協同組合支援	382
ウィメン・エンディング・ハンガー支援	733
女性対象の職業訓練及び権利啓発	49
情報センター・図書館運営	49
女性対象の起業無償支援	99
母子対象のヘルスケアセンター	929
青少年・成人対象の識字教育	2,709
幼稚園運営	2,418
中学校設備改善	895
権利啓発	575
女性協同組合によるキャッサバ加工	515
子どもの栄養改善	2,443
母子保健センター建設	102
乳幼児と妊産婦対象の栄養改善	4,615
学校給食	2,981
協同組合支援	1,988
井戸修繕	1,100
住民の能力強化	662
育苗場運営・植林・環境教育	6,618
井戸建設・管理研修	2,741
小学校設備改善・教材提供	2,747
支部運営	18,291
ユース・エンディング・ハンガー活動費	1,451
合計	64,744

2 国内事業費	
広報	6,083
啓発	5,032
資金調達・募金活動	39,295
ユース・エンディング・ハンガー・ジャパン活動費	1,766
合計	52,176

管理費支出の内訳

人件費	15,252
居住費	2,917
事務費	544
通信費	364
旅費交通費	2,069
報酬等	1,260
年会費	120
その他	509
合計	23,035

※特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールドは「公益法人会計基準」に基づいて会計処理および財務諸表の作成を行っています。
 ※資金の範囲には、現金・預金・未収入金・前払金・貯蔵品・および、未払金を含めます。
 ※特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールドは長尾久公認会計士事務所による外部監査を受けており、監査報告書を受領しております。

ごあいさつ

2010年度、HFWは10周年を迎えることができました。これも、長年に渡るみなさまのご支援とご指導によるものと、心から感謝を申し上げます。

10周年の節目となった2010年6月には、食料問題に関わる国際機関、政府機関、民間企業、市民団体の方々とシンポジウムを開催。飢餓対策に向けた有効な協力関係の構築について、また消費者である私たち一人ひとりの役割について議論し、それぞれの強みを生かした一層の連携が必要であることを確認しました。次の10年、HFWは多くの方と共に考え、提起し、より戦略的で効果的な活動を行っていきます。

年度も終わろうとする3月には東日本大震災が発生し、多くの尊い命が失われました。被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。この震災を通じ、電気や水道、食料などのありがたみを痛感された方も多くいらっしゃると思います。しかし、世界では今も、こうした困難な生活が生涯続く人々が、たくさんいることも忘れてはなりません。特に、2010年秋から国際的な食料価格が再び高騰し、2011年2月には史上最高値を記録。家計の6～8割を食費が占める開発途上国の人々への影響が懸念されています。

どうか、みなさまのHFWへのより一層のご協力、ご参加を、心からお願い申し上げます。



特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド
理事長 齊藤恵一郎

● 役員

理事長	齊藤恵一郎	住和不動産株式会社代表取締役	理事	山本のり子	特定非営利活動法人 市民によるガバナンス推進会議 理事
副理事長	星野直	株式会社 丸進不動産代表取締役社長		米山敏裕	特定非営利活動法人 地球の友と歩む会事務局長
理事	犬嶋由香里	株式会社 井上技研専務取締役		渡邊清孝	特定非営利活動法人 ハンガー・フリー・ワールド事務局長
	関口和孝	八王子市役所職員	監事	上島鋭一	株式会社 上島総合経営事務所取締役
	原田麻里子	Think the Earthプロジェクト コーディネーター		矢崎芽生	矢崎芽生税理士事務所 / 矢崎公認会計士事務所

(役職ごと50音順)

 **hunger free world** 飢餓のない世界を創ろう

2010年度版年次報告 2011年7月1日発行 発行人 特定非営利活動法人 ハンガー・フリー・ワールド理事長 齊藤恵一郎

編集人 甲野綾子 編集 立山誓一(ボランティアスタッフ) 図案制作 川村昌 印刷 島津印刷株式会社

発行所 特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-8-13 山商ビル7階

TEL 03-3261-4700 FAX 03-3261-4701 平日 10:00～21:00 土 10:00～18:00 E-MAIL hfwoffice@hungerfree.net URL <http://www.hungerfree.net/>

寄付金振込先 三菱東京UFJ銀行 神保町支店(普) 1053953 郵便振替 00130-6-192373 口座名 ハンガー・フリー・ワールド

※本書の一部または全部を無断で複製、転載引用することを固く禁じます





私たちは今、飢餓のある世界にいます。

飢餓が原因で亡くなる子どもは12秒に1人、

空腹のまま眠りにつく人は9億2500万人……。

ハンガー・フリー・ワールド（HFW）は、
飢餓のない世界を創るために活動する国際協力NGOです

HFWの活動目的は、飢餓のない世界を創ること。

心も身体も健康に生きていくために
必要な食料を自らの手で得られることは、
人間のもっとも基本的な権利の一つ。

HFWは、この「食料への権利」の実現を目指します。

どの国で暮らしていても「飢餓のある世界」に
暮らす一員として、世界の人々と共に行動することを呼びかけ、
『共創協働』の理念のもと活動しています。

日本に本部を置き、バングラデシュ、ベナン、
ブルキナファソ、ウガンダで活動。

特定の思想、宗教ならびに政治的意志から独立した
特定非営利活動法人（非営利・市民組織）です。

沿革

1984年4月…… アメリカに本部を持つNGOの日本支部として活動を開始。

2000年6月…… 日本に本部を置く国際協力NGOとして独立、組織変更。

2000年9月…… 特定非営利活動法人の認証（内閣府）を取得。